

■腫瘍内科

2006年10月に創設、今年で11年目を迎えます。徐々に成長・拡大を続けてきましたが、2016年に卒業生増加のため常勤医師3名に縮小しました。しかし、2017年4月には新任後期研修医2名が加わり、常勤医師5名、入院患者数30～40名（プラス耳鼻科／口腔外科4～6名）に規模が再拡大しました。また、総合内科とのコラボレーションも始まり、拘束は共有しています（腫瘍内科週末拘束は今まで通り）。それに加え、腫瘍内科1分レクチャーも週2回総合内科の朝カンファレンスで施行し、今後更なる協調体制を構築します。また消化器内科医減少に対応し、消化器癌の化学療法を一手に引き受けております。腫瘍内科はがん診療を行う関係各科と複数のキャンサーボード、コンサルトを通じ緊密に連携しています。また2017年2月から、毎週木曜日朝7:00より、米国ダートマス大学准教授白井敬祐先生との国際カンファレンスも行っています。科としての活動度は以前よりも更に増し、診療と教育にいそしんでいます。医師のリクルートは毎年努力内容を改善しています。

当科の非常勤医師で運営されている安房地域医療センターの腫瘍内科も、毎週土曜日に多数の外来化学療法を数年前から行っております。

当科は日本で唯一の米国的診療と教育体制を敷く腫瘍内科です。後期研修医プログラムはこれまで7期の卒業生を輩出し、亀田総合病院、大学病院、がんセンター、地域総合病院、緩和医院などへ明日のがん医療を担う人材を輩出してきております。腫瘍内科の患者さまは主に外科系各科、内科系各科、救急部、亀田京橋クリニック、安房地域医療センター、その他の医療機関からの紹介です。これまで腫瘍内科以外の各科で診療してきた内科的治療が主たる病状の様々ながん患者さまが、さらにきめ細かい全身管理とがんに対する専門知識を駆使した専門性の高い医療が受けられるように、私どもは腫瘍内科スタート当初より努力して参りました。治療手段として抗がん剤と放射線治療を用い、最新のがん治療を展開しております。がん診療をする各科が協力し合い、亀田のがん診療と教育は日本のトップクラスにのぼり詰めたと考えています。

腫瘍内科は、悪性腫瘍診療に関係する各科（消化器外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科、口腔外科、乳腺科、泌尿器科、脳神経外科、整形外科、心臓血管外科、婦人科、皮膚科、消化器内科、呼吸器内科、血液科、緩和ケア科）と協力し、今後も研修医の教育、高品質のがん医療を継続・発展させて参ります。また研究活動も継続します。そして亀田総合病院の医療と医学教育全体の質の維持と向上に寄与していくため努力して参ります。また、腫瘍内科部門は今後内科専門医制度の変革に合わせた新たな内科の診療と教育体制にも貢献してゆきます。

また2012年に発足した腫瘍内科合同プログラムは、2012年度に4名、2013年度は8名の後期研修医を迎え、2013年9月からは天理よろず相談所病院から卒後11年目の一般内科専門の指導医も迎えました。2年間の

間に、そのプログラム修了者は亀田総合病院の総合内科、消化器科、神経内科、リウマチアレルギー科、腫瘍内科、腎臓高血圧内科の後期研修医として加わりました。また2014年度から今後の内科教育体制の強化のため総合診療科と合併させていただき総合内科となりました。

1. 2017年度の目標及び方針

- 1) 米国式腫瘍内科の診療と教育体制を継続、強化し、各科との連携もいままで以上に強固にしてゆく。
それにて亀田の悪性腫瘍の診療の質の向上に努める。
- 2) 医師のリクルートに力を入れる。
- 3) 総合内科と協力関係を強化する。
- 4) 亀田総合病院と関連病院で、一般内科医の腫瘍患者の診療能力向上に貢献していく。
- 5) 院内の抗がん剤治療のための指針作りを薬剤部、看護部と継続的に構築する努力を継続する。

2. 2016年度目標の評価

- 1) 米国式腫瘍内科の診療と教育体制を継続、強化し、各科との連携もいままで以上に強固にしてゆく。
それにて亀田の悪性腫瘍の診療の質の向上に努める。
→他科からのコンサルトの積極的な受け入れや各科とのカンサーボードの継続、さらにはアメリカダートマス大学腫瘍内科の白井先生との遠隔カンファレンスもスタートした。他科医師も自由に参加できる国際カンファレンスとなっている。
- 2) 医師のリクルートに力を入れる。
→後期研修見学者は少なかったものの、確実に採用に結びつき2名が採用決定した。
腫瘍内科セミナーの受講者であり、今後もセミナー内容を充実させリクルートに繋げたい。
- 3) 総合内科と協力関係を強化する。
→総合内科との合同の拘束体制を検討し新年度より実施となった。部長による総合内科医師への1分間レクチャーも開始した。
- 4) 腫瘍患者の診療は内科医全員がその基本を体得しなければならない。亀田総合病院と関連病院で、一般内科医の腫瘍患者の診療能力向上に貢献していく。
→現在安房地域医療センターでは総合診療科と協力して腫瘍患者の診療を行っている。
- 5) 院内の抗がん剤治療のための指針作りを薬剤部、看護部と継続的に構築する努力を継続する。
→既に、各科とのカンサーボード、レジメン登録委員会、化学療法ワーキンググループなどを通じ

活動をしている。

3. 2016年度の診療活動

- 1) 外来部門（月、火、木、金）AM：再診、PM：一般初診、セカンドオピニオン外来及び他科コンサルト初診。亀田京橋クリニックと安房地域医療センターでの外来診療を行っている。
- 2) 病棟部門 入院患者は併診を含めて常時 25 名前後。他科からのコンサルテーションを受け入れている。

4. 教育活動

- ・毎週（月）7:00～ 腫瘍内科入院患者全症例カンファレンス
- ・毎週（火）7:30～ 呼吸器がんボード（腫瘍内科、外科、呼吸器内科、放射線科）
- ・毎週（火）17:30～ 消化器がんボード（腫瘍内科、消化器内科、外科）
- ・毎週（水）9:00～ 腫瘍内科回診
- ・毎週（水）8:00～ 乳腺がんボード（腫瘍内科、乳腺科、放射線科）、
- ・毎週（水）13:30～ 腫瘍内科入院患者全症例カンファレンス
- ・毎週（木）7:00～ アメリカ/ダートマス大学腫瘍内科白井敬祐先生との国際カンファレンス
- ・毎週（金）8:00～ 腫瘍内科レクチャー
- ・毎週（月）（金）8:20～総合内科1分レクチャー（総合内科）
- ・第2・4（火）7:30～ 泌尿器がんボード（腫瘍内科、泌尿器科）
- ・第1・3（水）7:00～ 頭頸部がんボード（腫瘍内科、口腔外科、歯科、耳鼻科、放射線科）
- ・第2・4・5（水）7:30～ 耳鼻科がんボード

*その他適時、重要な文献の抄読会、部長による各腫瘍に対する演繹的な講義と、希望により、看護師、コメディカル向けの講義を実施。

5. スタッフ → [亀田メディカルセンターホームページ スタッフ紹介へ](#)

6. 学術業績

1) 講演・講義他

大山 優

- ・4/18 エーザイ社内レクチャー講師「悪性軟部腫瘍の治療について」
- ・8/27 腫瘍内科セミナー講師 アイヌブレイキングレクチャー「Oncologic Emergency」
- ・7/8 第14回千葉肺癌カンファレンス当番幹事（千葉）
- ・7/9 第53回千葉乳腺疾患研究会 講演「乳がん治療における最新の話提供」（幕張）
- ・8/18 大塚製薬工場社内レクチャー講師「腫瘍内科領域の栄養管理におけるMRの知識向上」
- ・9/14、21、28、10/5、12、19、26、安房医療福祉専門学校講義
- ・12/2 サルコーマセミナー シンポジウム2「肉腫・希少がんのゲノム解析のインパクトー「先進医療に向けた新規薬物療法と診断法の開発戦略」司会（京都）
- ・12/14 ダートマス大学腫瘍内科助教授 白井敬祐先生講演会 座長

齋藤亜由美

- ・8/28 腫瘍内科セミナー講師 「がんの細胞生物学」「がん患者さまとのコミュニケーション」

三浦大典

- ・8/28 腫瘍内科セミナー講師 「総合内科から”がんみただけどうすれば良いの?”」
「知っておきたいがん免疫療法の基本」

2) 学会発表

大山 優

- ・「担癌患者における偽膜性腸炎の後方視的検討」第54回日本癌治療学会学術集会 10/20～10/22

齋藤亜由美

- ・「当院におけるニボルマブ使用例の効果と有害事象」第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 7/28～7/30

原田陽平 齋藤亜由美 三浦大典 大山優

- ・「悪性腫瘍に合併したVTEに対してエドキサバンを使用した16例の報告」第38回日本血栓止血学会学術集会 6/16～18

3) 執筆

大山優

- ・羊土社 Gノート6月号2016 Vol.3 No.4 「非専門医にも選択肢として考えてほしい化学療法」

齋藤亜由美 大山優

- ・科学評論社 月刊「腫瘍内科」第18巻第5号(2016年11月)「薬物療法に起因する末梢神経障害の特徴と対策」

4) 教育ビデオ収録

大山優

- ・(株)ケアネット 医学教育番組 Care Net TV 「がん化学療法の基本」映像収録 2016年11/19,20
2017年2/4,5

文責：大山 優